

令和6年3月1日

## 有田市・ENEOS・サントリーグループで サーキュラーエコノミーの実現に関する包括連携協定を締結

有田市はENEOS株式会社及びサントリーグループと、「有田市におけるサーキュラーエコノミーの実現に関する包括連携協定」を本日3月1日に締結しましたので、お知らせいたします。

市町村とENEOS、サントリーグループの3者で締結する協定は全国初です。

### 1. 背景・目的

有田市では、「わかやま資源自律経済ビジョン」(和歌山県 令和5年10月)策定への参画を通じて、サーキュラーエコノミーの実現に向けた取組を進めています。

当ビジョンの策定に共に参画し、当市にSAF製造の事業化を進める和歌山製造所が立地するENEOS、そして全国の自治体との連携を進めるサントリーグループとの3者で包括的に連携することで、それぞれの資源やネットワークを有効活用して、当市におけるサーキュラーエコノミー型産業を振興させ、さらには資源循環を通じて市民が自信や誇り、愛着を持って暮らせるまちを創出することを目的に、包括連携協定を締結しました。

#### (※) SAFについて

SAFは、「持続可能な航空燃料」(Sustainable Aviation Fuel)の略称で、従来のジェット燃料が原油から精製されるのに対し、廃食油やサトウキビ、都市ごみ、廃プラスチックなどを用いて生産されます。従来のジェット燃料と比較し、約60~80%のCO2削減効果があるとされています。

有田市に立地するENEOS和歌山製造所では、SAF製造の事業化が進められています。

### 2. 協定の締結者 (五十音順)

有田市、ENEOS株式会社、サントリーホールディングス株式会社

### 3. 連携事項

(1) 有田市内の未利用資源・事業活動から生じる副産物の資源化等に関するこ  
と

<例>

- ・ 一般家庭にて調理に使用され、また賞味期限切れなどで使用されず

に廃棄される食用油からのS A F製造及び製造時の副産物であるバイオナフサを利用した製品製造

- ペットボトルの水平リサイクル

- (2) 有田市内の未利用資源等を有効活用するための市民への啓発・周知活動に関すること
- (3) その他、サーキュラーエコノミーを実現するために必要な取組に関すること

<イメージ図>



#### 4. 協定の締結日

令和6年3月1日（金）

#### 【参考】本協定締結にあたってのコメント

(有田市)

有田市では、有和中学校の開校やドバイの中学生との交流など、未来に向けた変化への投資を進めています。サーキュラーエコノミーの実現も未来に向けて取り組むべきことのひとつであり、本協定の締結をもってENEOS及びサントリーグループとともに、使用済み食用油の回収やペットボトルの水平リサイクルなどの具体的な取組を開始できることは、当市でサーキュラーエコノ

ミーを実現していくための大きな一歩となります。

また、将来的に当市の家庭から集められた食用油が当市にある和歌山製造所でSAFに生まれ変わり、世界の航空輸送を支えていくことは、市民の誇りになると確信しています。

これを第一歩として、今後も県や企業と連携しながら、サーキュラーエコノミー実現に向けた取組を進めてまいります。

### (ENEOS株式会社)

ENEOSは、グループ長期ビジョンに掲げる通り、「エネルギー・素材の安定供給」と「カーボンニュートラル社会の実現」との両立に向け挑戦しています。その一環として、SAFサプライチェーンの構築を推進しており、原料となる使用済み食用油を持続可能な形で確保する仕組みを検討しています。また、グリーントランスフォーメーション(GX)のモデル拠点として「未来環境供給基地」を目指す和歌山製造所において、SAF製造の事業化検討を進めています。

本連携協定では、一般家庭からの使用済み食用油回収スキーム構築に加え、サントリーグループとの協業により、SAFの連産品であるバイオナフサを活用したバイオペットボトル製造を検討いたします。

本取り組みを通じ、サーキュラーエコノミーの実現および地域社会への貢献を目指してまいります。

### (サントリーグループ)

サントリーグループは、自然と水の恵みに生かされる企業として、「人と自然と響きあい、豊かな生活文化を創造し、『人間の生命(いのち)の輝き』をめざす。」をパーパスとし、創業以来、持続可能な社会の実現を目指してきました。

資源循環の観点では、2012年に国内清涼飲料業界で初めてリサイクル素材100%のペットボトルを導入<sup>\*1</sup>したことを皮切りに、従来よりもCO2排出量を低減する世界初の「FtoPダイレクトリサイクル技術」を開発<sup>\*2</sup>するなど、長年にわたって技術革新を進め、積極的に「ボトル to ボトル」水平リサイクルを実用化・推進してきました。2019年には「プラスチック基本方針」を策定し、ペットボトルに関しては2030年までに「100%サステナブル化<sup>\*3</sup>」することを目標にさまざまな取り組みを行っています。

和歌山県とは、今年1月にENEOS株式会社、花王株式会社とも協働し、「和歌山県におけるサーキュラーエコノミーの実現に関する包括連携協定」を締結しています。また、ENEOS株式会社とはバイオマス資源の有効活用を

目指し国内未活用の使用済み食用油調達における協業も開始しています。

※1 メカニカルリサイクルとして

※2 協栄産業（株）など4社で共同開発

※3 リサイクル素材あるいは植物由来素材等100%に切り替え、新たな化石由来原料の使用をゼロにする

----- 本件に関するお問い合わせ先 -----

有田市役所 経営管理部 経営企画課

担当：山本、山原

電話：0737-22-3731 メール：keieikikaku@city.arida.lg.jp